

山口カトリック教会報

サビエルの鐘

第33号



司祭叙階50周年に

主任司祭 百瀬文晃

司祭に叙階されて50年になるとは、自分でも信じられません。目の前の課題に夢中で取り組んでいるうちに、いつのまにか、年月が過ぎました。

私が叙階されたのは、ドイツのフランクフルトでした。神学生として勉強のために送られて、言葉もよくできず、神学もわからないままに、叙階の日が近づいて、「これでいいのだろうか」と不安でした。世のことを何も知らず、人間としてあまりにも未熟で、司祭が何であるかをわきまえないうちに、その日がきてしまいました。

叙階式は7月25日、使徒ヤコブの祝日でした。ミサの福音では、ゼベダイの子ら、ヤコブとヨハネがイエスの所に来て、「王座にお着きになるとき、一人はあなたの右に、もう一人は左に座らせてください」と願う箇所でした(マタイ20・20-28)。イエスは、「あなたたちは自分が何を願っているかを知らない」と答えます。司式してくださった司教さまが説教の中で、「あなたたちがイエスに最後まで従っていくことは、自分の力でできるものではない。もしできるとすれば、それは主が自分の命を差し出して、守ってくださったときだけだ」と言われました。

本当にそのとおりでと思います。未熟なままに司祭になった私は、その後まるで洗濯機に投げ込まれた猫のように、さまざまに揺すぶられました。博士

論文を書きながら、一人で民家の屋根裏部屋に下宿していたときもありました。何とか生き延びて帰国してからは、大学で学生たちと接することは好きでしたが、管理職につかされると、学部の運営や人事など、司祭職と関係のない仕事に苦しみました。その後、マニラの神学院に送られた6年間は、言葉も気候も食事も合わず、健康を損ねて帰国しました。心でも体でも、あまりに余裕のない生活をしていると、司祭としての召しだしの上でも試練や誘惑にあって、今から振り返ると、しばしば崖っぷちにきていたと思います。

それでも私は、自分のほうから司祭をやめようとは、一度も考えることがありませんでした。このこと自体、未熟な若者を召しだしてくださった主キリストが、さまよい出ようとする私をそのつど連れもどし、守ってくださ

ったことのあるしでしょう。

このたびコロナ禍でお祝いのパーティはなくなりましたが、多くの方が「おめでとう」と、暖かい言葉をかけてくださいました。私が司祭としてここにいるのは、たくさんの方々の祈りに支えられてきたからです。これからも、主キリストが、最後の日まで私の召しだしを守ってくださるよう、ご一緒にお祈りください。



井戸端に立つフランシスコ・ザビエル -山口の散歩から-

助任司祭 外川直見



この4月に東京から山口教会に移ってきました。新型コロナウイルスのお陰もあり、散歩のゆとりが生まれました。また、山口天使幼稚園から園児と卒園

児に宗教の話をと頼まれました。百瀬神父様の助言もあり、聖フランシスコ・ザビエルの話をしようと考えました。子供たちは幼稚園のそばにある平和の鐘と、井戸端に立つフランシスコ・ザビエルの像に日頃から親しんでいるでしょう。20年余り前、広島学院の中学生たちと山口を訪れたことがあります。現在のザビエル記念聖堂は着工したばかりでしたが、幼稚園の2階に泊めてもらい、当時主任司祭であった山根神父様のお話を聞きました。ザビエル公園、瑠璃光寺などを見学したあと、ザビエルの井戸を民家の中に見せていただいたのをよく覚えています。今回、園児たちにお話をするにあたり、この井戸をぜひこの目で再確認したいと考えました。龍福寺のそばと思い、その近くを探したところ、十朋亭の職員の方が「それは自分の家にある井戸だ」と案内してくださいました。それは以前広島学院の中学生たちと見学したその井戸でした。その井戸を写真に撮って幼稚園の園児たちに見せることが出来ました。その井戸水は今も家事のために使っておられるとか。その方は部屋の奥から1冊の雑誌を持ってこられました。「ザビエル布教の道」と題して、小学館から出されたシリーズ「週刊真説歴史の道」の1冊で、写真を多く用いてザビエルの生涯をまとめたものでした。10年前に出版されたもので、それを快く譲ってくださいました。大内氏の館に近いこの井戸のそばで、昔フランシスコ・ザビエルは数カ月の間、道行く山口の人々にゼウスの救いを呼び掛けていたのです。

この井戸のそばに立つフランシスコ・ザビエルとともに、2人の日本人がいたのを思い浮かべます。

一人は薩摩のベルナルドです。鹿児島でザビエルから洗礼を受けた日本人ですが、日本名はわかっていません。ザビエルは鹿児島から山口を経て京都を訪れ、また山口に戻り、大分からインドのゴアに帰りましたが、ベルナルドはザビエルの日本での滞在中、いつも影のように付き従っていました。その後、ゴアからザビエルと別れ、ローマに行き、イエズス会に入会しましたが、その後神学を勉強し始めて間もなく病いを得て帰天しました。彼は初めての日本人イエズス会士になりました。彼は、ザビエルが山口にいた間、この井戸のそばでザビエルの話に耳を傾けていたのでしょうか。または、宿であった大道寺で留守を守り、ザビエルに会いに来た多くの人たちの世話などをしていたのでしょうか。ザビエルに忠実に従っていたベルナルドの姿をこの井戸のそばに思い浮かべたいのです。

もう一人の日本人はロレンソです。平戸の近くの小さな村に生まれ、生まれたときから視力が極めて弱く、琵琶法師となりました。いつ山口に出てきたのかわかりません。山口に来て、井戸端で説法をするザビエルとフェルナンデスに出会いました。話に耳を傾け、洗礼を受けました。ザビエルが大分に去った後、トルレス神父、フェルナンデス修道士とともに生活をする中で、イエズス会に入会しました。人柄がすぐれ、知識に秀でていました。神父たちと大阪・京都に行き、高山右近の父、高山飛騨守など有力な武将をキリスト教に導きました。その後、日本で宣教活動に大きな役割を果たしました。ロレンソは井戸端のザビエルの話とその生活からどのような精神を吸収したのでしょうか。

この井戸の周りで多くの出会いがあり、信仰の目覚めがあったでしょう。その出会いと目覚めが山口教会の信仰の出発点になり、礎になっているでしょう。そこから始まる山口教会の歴史を静かに思い浮かべたいと思います。



窮屈な生活を強いられる中、子ども達もがんばっています

青島 多喜 (小学5年生)

夏休みに熱を出したので、念のため二週間、教会に行けませんでした。

だから、日曜日は家で家ぞくとせい書を読んでおのりしました。コロナのえいきょうで、毎年行っている静岡のおじいちゃんのところに行けませんでした。



増田 なつめ (中学3年生)

私はこの夏、2年半の中学部活動を引退しました。

新型コロナウイルスが広まった4月頃は引退試合ができるか不安でしたが最後にチーム全員で全力で戦うことができたので良かったです。

これからは受験生なのでしっかり勉強に集中したいと思います。

山本 聖 (高校1年生)

僕はこの春高校へと入学しました。通常時でさえ、入学とは新しい環境に置かれてとても不安が募ります。そんな中でのコロナウイルスの大流行は、間違いなく僕の不安を大きくさせました。中学校入学時の経験から考えると、一年生の一学期というものは、クラスや部活動など、周囲との関係を作る上で、非常に大きな役割を持っていると思います。その一学期が始まって、友達を作る時間も、部活動に入る間もなく直ぐに休校となってしまいました。ただただ、家の中で過ごす日々が続き、勉強への不安や、外出できないストレスでの生活の中で、僕の心を救ってくれたのは、中学校の時の友人です。直接会って話をする事はできなかったけど、通話アプリを利用する事で、以前より話す機会が増えました。このことにより、僕は改めて友人の大切さや有り難さに触れる事ができました。だから、今の苦しい時を悲観するのではなく、前向きにとらえて、大切な高校生活を送ろうと思います。



ロレンソ図書の勧め

山口教会には一つの宝があるのをご存じですか。ロレンソ図書です。

もともとこれは、山口島根地区の全体がイエズス会に委ねられていたころ、30名ほどの、多くは外国人宣教師たちが、宣教と司牧のために必要な書物を地区本部に整備したものでした。主として事典、聖書の注釈、神学、祈りや司牧の実践、歴史、サビエルとイエズス会などに関するもので、なかなか貴重なものがそろっています。ラテン語、英語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語の原著も豊富です。時代が変わって、第二バチカン公会議以後の変化とともに、外国人宣教師も少なくなりました。近年の山口教会の施設統合にともなって、ロレンソ図書でも、古くて使われなくなった書物を処分し、時代に合った書物を購入するようになりました。

現在は、ロレンソ図書は司祭たちだけでなく、すべての信徒およびキリスト教に興味をもつ一般の人々のために、無料で開かれています。従来の図書カードによる検索の代わりに、各書物にラベルをはり、分野ごとに書架に並べていますから、だれでも気軽に読みたい書物を探せます。「キリスト」「マリア」「パウロ」「サビエル」「イグナチオ」「教会」「ミサ」「秘跡」……というふうに。

ぜひ一度、訪ねてみてください。借りたい本を見つけたら、貸し出しノートに書名と自分の氏名と日付を書き込み、返すときに自分で消すだけです。貸し出し期限は3カ月です。

もし皆に有益な本で購入してもらいたいものがあれば、図書係（重田宣子）、または選書委員会（百瀬文晃神父、首藤久子、横田蔵人、原田孝幸）に申し出てください。地区イエズス会の予算のゆるすかぎり、対応したいと思います。



編集後記

ある日突然、日常が変わることを、コロナ禍で思い知らされました。そして、「正義感」の怖さも感じています。物理的な分断がある中で、恐怖から人を責めることなく、思いやりの気持ちを持って人と繋がっていったら、今の状況が意味のある時間になるでしょうか。

コロナ終息を祈るとともに、終息後の世界が暖かい世界になるように祈ります。（本田）

発行 山口カトリック教会
発行責任 主任司祭 百瀬 文晃
編集責任 山口カトリック教会 広報部

〒753-0089 山口市亀山4-1
tel. 083-920-1549
hp検索 山口カトリック教会
e-mail xavier@xavier.jp

2020年9月20日発行